For a Great Tomorrow

わたしたちは、天然ガスで明日の社会に貢献します

関東天然瓦斯開発株式会社

環境・社会活動レポート 2010

目次

トップメッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・2ページ
会社概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3ページ
環境保全のために
　環境方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・5ページ
　環境マネジメントシステム・・・・・・・・6ページ
　環境目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・7ページ
　環境パフォーマンス・・・・・・・・・・・9ページ
　環境保全への取り組み・・・・・・・・・・11 ページ
誠実な企業活動
　コーポレート・ガバナンス・・・・・・・・13 ページ
　安全と品質の管理・・・・・・・・・・・・15 ページ
　社会貢献活動・・・・・・・・・・・・・・17 ページ

ガス灯（千葉県茂原市）

編集方針

本レポートは、関東天然瓦斯開発株式会社の環境保全および社会貢献に対する考え方や主な取り組みについて記載しております。

■報告対象期間
平成 21 年 1 月 1 日～12 月 31 日（第 148 期）
ただし、一部に平成 21 年 12 月 31 日以降にかかる記載を含んでおります。

■報告対象範囲
原則として、関東天然瓦斯開発株式会社について記載しておりますが、子会社に関する記載も一部に含まれております。

トップメッセージ

貴重な国産資源の安定供給を担う企業として、CSR重視の経営で社会的信頼に応えてまいります

代表取締役社長　吉井正徳

当社は、貴重な国産資源である天然ガスの採取・販売を主たる事業としており、日本初の天然ガス事業会社として、地域の産業と生活の発展に貢献してまいりました。

また、地球温暖化が深刻化するなか、天然ガスは環境負荷の比較的小さい化石燃料として期待を集めており、従来からその拡販を通じ、環境保全に寄与してまいりました。

さらに、ステークホルダーの皆様から一層の信頼を賜るため、当社グループの経営理念・経営方針に基づく事業運営を徹底しているほか、国際規格である ISO14001 に基づく環境マネジメントシステムの運用や、事業の適法性と効率性を両立させる企業統治の強化等を実施しております。

今後も健全かつ継続的な事業発展のため、企業の社会的責任を常に意識しながら、貴重な国産資源の安定供給という公共的使命を果たしつつ、コンプライアンス経営の徹底、万全な保安体制の確保、環境に配慮した事業活動の推進を行ってまいります。

グループ経営理念

天然ガスの生産と販売を中核に、快適で豊かな生活の実現と社会の発展に貢献する。

グループ経営方針

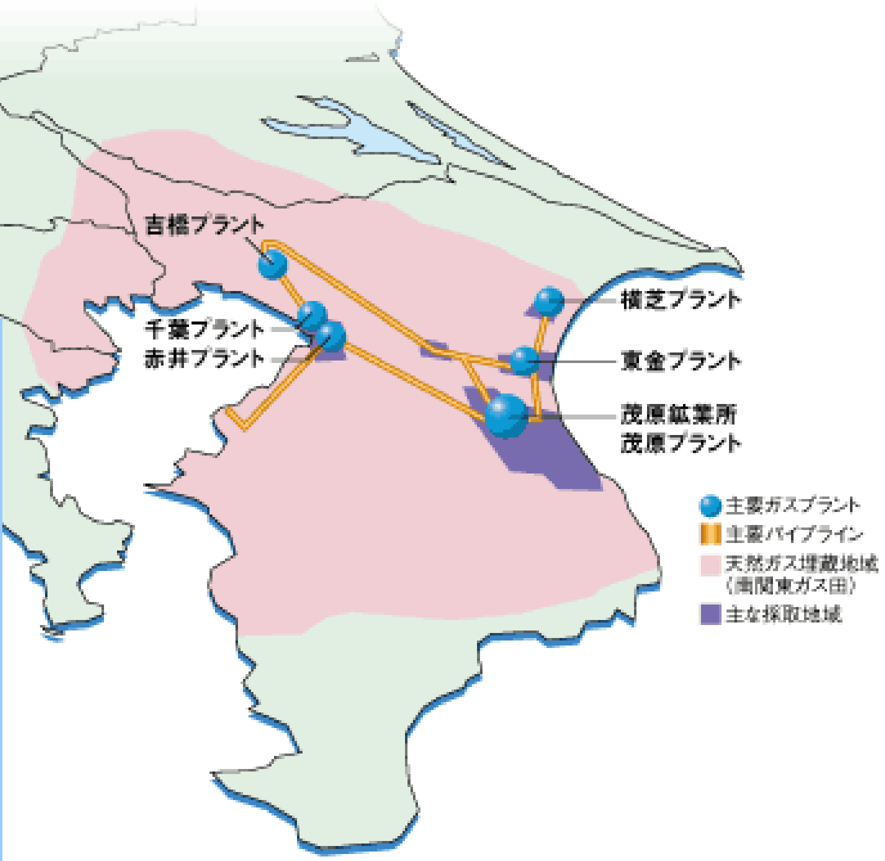
- **コンプライアンスの遵守**
  法令・ルール等を遵守し、誠実かつ公正に行動する。
- **環境との調和、品質と安全の確保**
  環境との調和・共存、および、品質・安全に万全を期した事業活動を推進する。
- **お客様満足の追求**
  お客様の立場に立った価値ある商品・サービスを提供し、お客様に選ばれる会社となる。
- **企業価値の向上**
  企業価値の向上に努め、適時かつ的確な企業情報を開示する。
- **チャレンジする職場風土の実現**
  創造性とチームワークを活かし、チャレンジする職場風土を実現する。

会社概要

日本初の天然ガス事業会社として、創業以来、地域社会を支える公共的使命を担っています

≪基本データ（平成 21 年 12 月 31 日現在）≫

会　社　名	関東天然瓦斯開発株式会社 （Kanto Natural Gas Development Co.,Ltd.）
事業内容	天然ガスの採取・販売、ヨードの製造・販売、かん水の販売
設立年月日	大正６年５月 24 日
創業年月日	昭和６年５月 27 日
資　本　金	7,902,185,320 円
主要事業所	本　　　社　（東京都中央区日本橋室町二丁目１番１号） 茂原鉱業所　（千葉県茂原市茂原 661 番地） 吉橋プラント　（千葉県八千代市吉橋 1820 番１）
従業員数	151 人
発行済株式総数	60,996,473 株
株　主　数	5,303 名
主要株主	東京電力株式会社、合同資源産業株式会社
上場金融商品取引所	東京証券取引所（市場第一部、証券コード 1661）



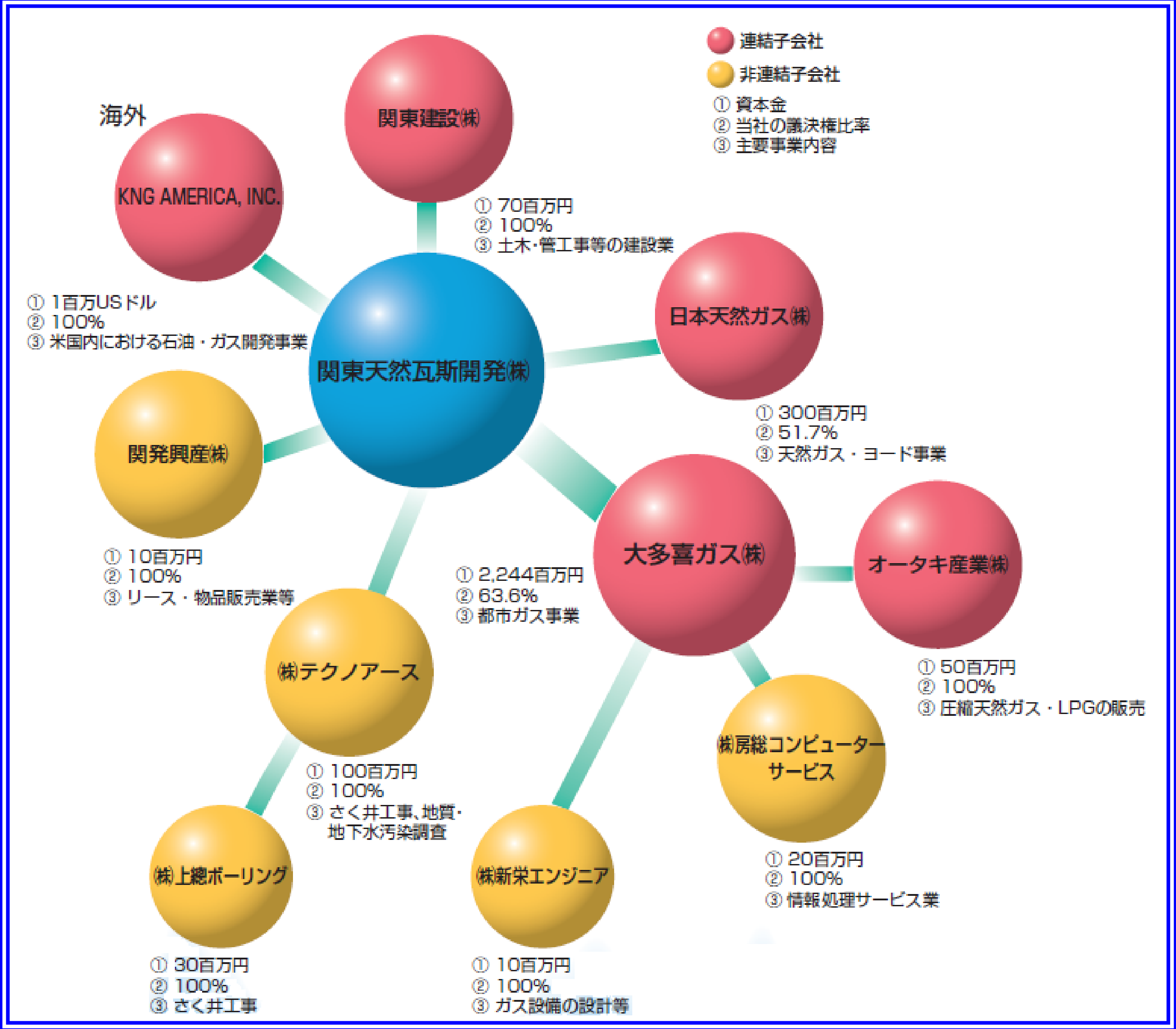
ガス井

≪個別経営成績・財政概要（平成 21 年 12 月期）≫

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
141 億 22 百万円	9 億 71 百万円	19 億 34 百万円	7 億 19 百万円
ガス生産量	**ガス販売量**	**ヨード生産量**	**ヨード販売量**
177,069 千㎥	324,500 千㎥	329 t	869 t

総資産	純資産	１株あたり純資産
44,747 百万円	38,204 百万円	745.36 円

≪グループ会社概要（平成 21 年 12 月 31 日現在）≫



環境方針

事業活動と自然環境との調和を目指して経営トップ策定の環境方針を徹底しています

当社では、取締役社長の策定による環境方針を以下のとおり宣言し、全ての役員・従業員に徹底するため、社内各所の環境掲示板への掲示、携帯カードの配布、環境教育の実施を行っております。

また、外部の方にいつでもご覧いただけるよう、当社のホームページにおいて公開しております。（http://www.gasukai.co.jp/csr/environment/index.html）

環境方針

当社は、「天然ガスの生産と販売を中核に、快適で豊かな生活の実現と社会の発展に貢献する」との経営理念に基づき、我々の事業全般が環境と深く関わっていることを認識し、自然環境との調和を果たすことを宣言し、以下の環境方針を定めます。

1．当社は、エネルギー資源として環境負荷に優れた天然ガスの利用拡大を図るため、安全で効率的な操業と安定供給に努めます。

2．当社は、環境方針を達成するため、事業活動における環境関連法規等を遵守し、構築した環境管理システムを継続的に改善します。

3．当社は、環境負荷を低減するため、事業活動において発生する廃棄物を適正に処理するとともに、省資源・省エネルギーを実現するため、その発生量の抑制とリサイクル化を推進します。

4．当社は、自然環境と事業活動とのバランスある発展を図るため、汚染の予防、事故等の緊急事態による環境影響の防止に努めます。

5．当社は、環境方針を達成するため、継続的な教育・啓発活動を実施し、社員の環境意識の向上に努めるとともに、環境保全のための研究・技術開発に取り組みます。

環境マネジメントシステム

ISO14001 規格に基づくシステムを構築して環境保全活動を効果的に推進しています

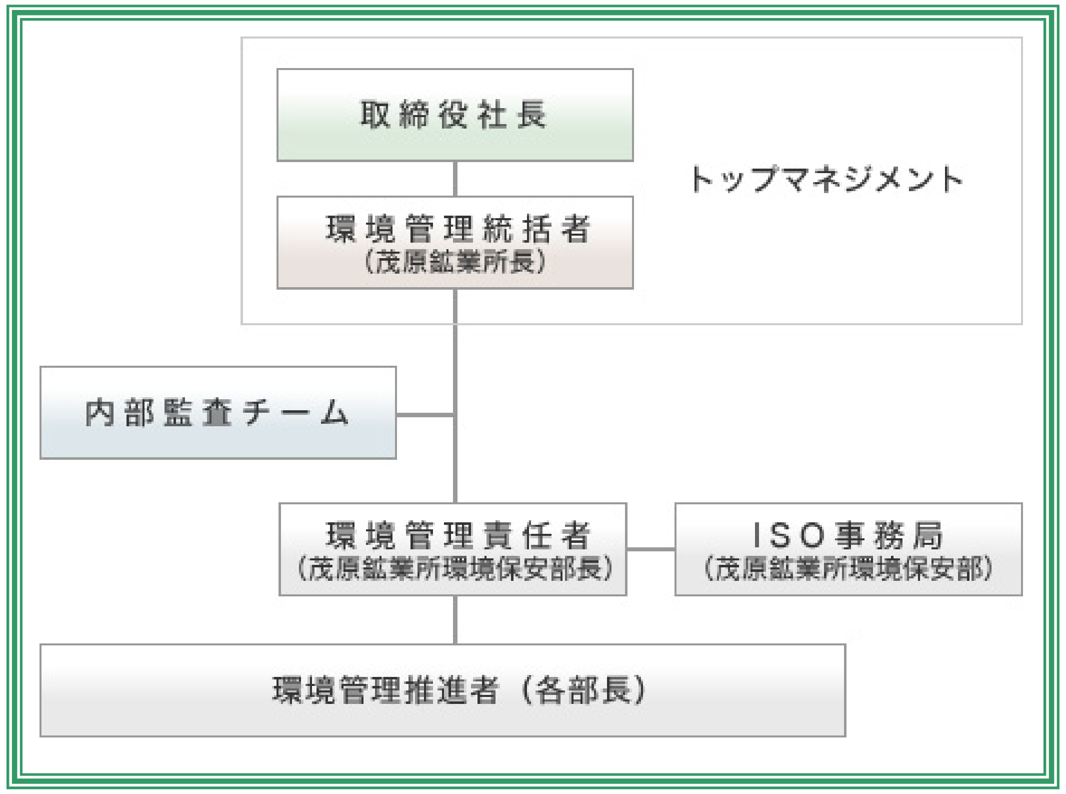
当社は、平成 18 年 11 月に認証取得した ISO14001 規格の要求事項に則り、環境保全活動を効果的に推進するため、環境マネジメントシステムを構築しております。

当社における環境保全活動は、全ての役員および従業員を対象とし、その適用範囲を主要な事業所に合わせて、本社・茂原鉱業所・吉橋プラントの３つのサイトに分類しております。

当社の環境マネジメントシステムにおいては、最高責任者を取締役社長、その補佐者を環境管理統括者（茂原鉱業所長）としております。

取締役社長および環境管理統括者（茂原鉱業所長）が指名した環境管理責任者（茂原鉱業所環境保安部長）の指導に基づいて、環境管理推進者（各部長）が各部門毎の環境保全活動に取り組んでおります。

≪環境マネジメントシステム組織図≫



なお、子会社である大多喜ガス株式会社、関東建設株式会社、株式会社テクノアース、日本天然ガス株式会社においても、それぞれ ISO14001 認証を取得しております。

環境目標

経営トップによる承認を受けて設定した環境目標の達成に毎年取り組んでいます

当社は、ISO14001 規格に基づく環境マネジメントシステムにおいて、環境重点管理項目のもとで各部門毎に設定した環境目標の達成に、毎年取り組んでおります。

環境目標は、環境管理責任者（茂原鉱業所環境保安部長）の指示に基づき、環境管理推進者（各部長）が毎年１月に作成し、取締役社長と環境管理統括者（茂原鉱業所長）の承認を受けて設定されます。

環境管理推進者（各部長）の監督のもと、各部門にて環境目標の実行計画を推進し、環境管理責任者（茂原鉱業所環境保安部長）による四半期毎のチェック、年２回の内部監査によって、その進捗状況が定期的に点検されます。

翌年１月には、取締役社長と環境管理統括者（茂原鉱業所長）による「マネジメントレビュー」によって、総括とフォローアップが行われます。

このように、環境目標の達成に向けた毎年の活動を通じ、PDCA サイクルによる継続的改善が行われるシステムを構築しております。

≪平成 21 年度環境目標≫

環境重点管理項目	環境目標（部門別）
環境保全 （保安の確保）	環境広報の拡充 保安計画の推進ほか　（全７項目）
ガスの安定供給 （ガスの拡販）	ガスの拡販 新規ガス井戸開発の計画通りの推進 生産能力、還元能力のアップほか（全５項目）
鉱山廃水の適正管理	千葉県との協定を順守した生産管理 （全１項目）
温暖化ガスの排出抑制	天然ガス自動車の導入促進ほか　（全２項目）
環境技術・工法の推進 （環境に配慮した技術・工法の推進）	ガスの漏洩予防対策促進 （全１項目）
環境負荷低減 （省エネ・省資源）	廃棄物の適正管理 使用済紙資源のリサイクル推進ほか 事務用品における環境対応商品の導入推進 （全 17 項目）

平成 21 年度においては、以上のような環境目標に取り組み、**33 項目中 23 項目を達成（達成率 70%）**したうえで、更なる改善のための総括とフォローアップを行いました。

平成 21 年度の環境目標に対する達成結果を受けて、各部門において取り組むべき課題を改めて検討した結果、平成 22 年度の環境目標として 35 項目を設定し、その達成に向けて努力しております。

また、平成22年度より、会社としての取り組みをより分かり易くするため、各部門の環境目標を集約し、会社全体の環境目標として、以下の13項目を設定いたしました。

≪平成 22 年度環境目標≫

環境重点管理項目	環境目標（全社）
環境保全 （保安の確保）	①環境広報の拡充 ②災害・事故・鉱害の発生防止
ガスの安定供給 （ガスの拡販）	③ガスの拡販 ④ガス生産量の維持・増産
鉱山廃水の適正管理	⑤千葉県との協定を順守した生産管理
温暖化ガスの排出抑制	⑥天然ガス自動車（環境対応車を含む）の導入促進 ⑦生産設備からの温室効果ガス排出抑制
環境技術・工法の推進 （環境に配慮した技術・工法の推進）	⑧ガスの漏洩予防対策促進 ⑨排かん水の色度低減技術の開発
環境負荷低減 （省エネ・省資源）	⑩省エネルギーの推進 ⑪廃棄物の削減 ⑫資源の有効利用、省資源化 ⑬環境に配慮した製品の導入促進

【環境目標事例ご紹介】天然ガス自動車の導入促進

天然ガス自動車は、ガソリン自動車に比べて二酸化炭素や窒素酸化物の排出の少ない低公害車として普及が進んでおります。

当社の事業地域では、千葉県茂原市に所在する茂原鉱業所に、子会社のオータキ産業が天然ガススタンド（エコステーション）を併設しております。

当社は、平成 24 年度中に社有車の 20%以上が天然ガス自動車となるよう導入を進めており、平成 21 年 12 月末現在で、社有車 52 台中、９台が天然ガス自動車となっております。

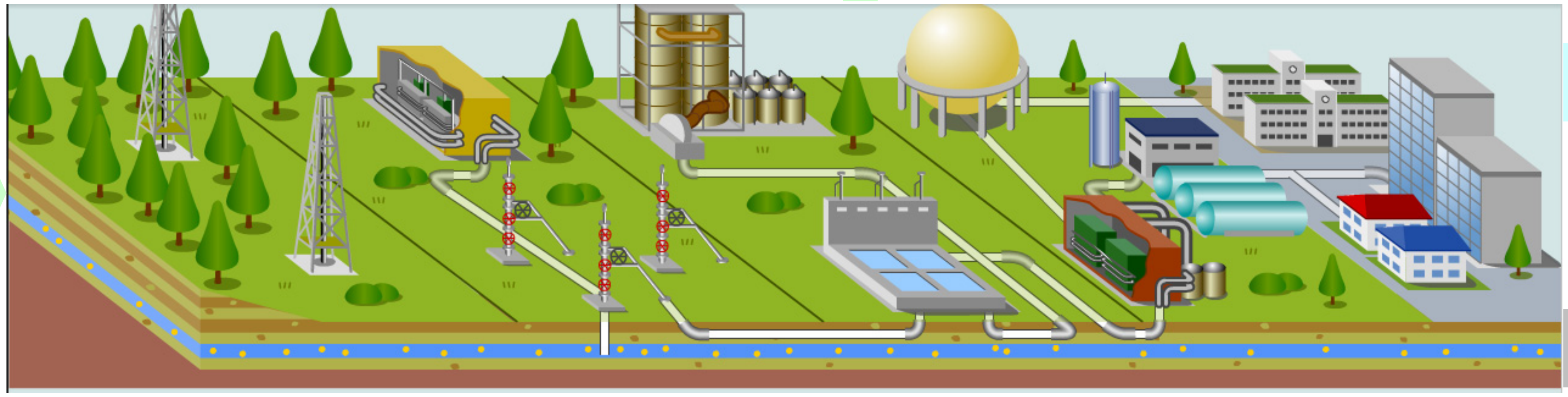
環境パフォーマンスデータ

事業活動による環境への影響を把握し、環境負荷の低減に努めています

≪主要品目 INPUT・OUTPUT(平成21年1月1日～平成21年12月31日)≫

エネルギー・水資源	
電力	60,169千kwh
上水道	28,311㎥
工業用水	22,798㎥
地下水	375,668㎥
ガソリン	35,606 L
天然ガス(自家消費含む)	295千㎥
消耗品	
OA用紙	2,757 kg
潤滑油	25,880 L
原料・副資材	
購入天然ガス	118,862千㎥
ブタンガス	18,685t

リサイクル
OA用紙：240kg
新聞紙等：240kg
オイル類：31,100 L



製品	
天然ガス	
生産	177,069千㎥
販売	324,500千㎥
ヨード	872t
かん水	
生産	16,020千㎥
販売	11,116千㎥

排出	
産業廃棄物	778t
一般廃棄物	47t
下水	9,988㎥

≪温室効果ガス排出量≫

■ 事業活動に伴うエネルギー起源二酸化炭素排出量

エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)に基づき「エネルギー使用状況届出書」にて関東経済産業局へ届け出た、平成21年度(平成21年4月～平成22年3月)の当社のエネルギー使用量は、原油換算で **15,293KL** であります。

その内容は、ガスの生産設備および事務所における電気および天然ガス等の使用であり、これらに伴う二酸化炭素排出量は、**約26,000t** となります。

※省エネ法の概要については、下記サイトをご参照下さい。
「改正省エネ法の概要2010」((財)省エネルギーセンター)
http://www.eccj.or.jp/law/pamph/outline_revision/index.html

■ 販売先での二酸化炭素排出量(平成21年)

平成21年ガス販売量 **324,500千㎥** → 燃焼時の二酸化炭素排出量 **約645,000t**

同エネルギー量を得るために必要な原油量 **326,500 KL** → 燃焼時の二酸化炭素排出量 **約855,000t**

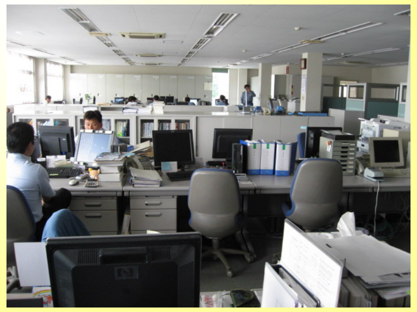
当社が販売した天然ガスに相当するエネルギー量を、全て原油でまかなった場合に比べると、二酸化炭素の排出を **約210,000t** 削減したこととなります。

■ 温室効果ガス排出削減のために

当社は、温室効果ガスの排出削減のために、様々な取り組みを行っております。

天然ガスの生産時における温室効果ガス排出削減への取り組みに加えて、事務所においても、省エネルギーの観点から、夏季・冬季におけるクールビス・ウォームビズ活動の中で事務所室温を適正に管理するとともに、設備の不使用時の消灯・消電源の徹底を行っております。

さらに、平成22年より、昼休み時の一斉消灯も行っており、全社一丸となって、温室効果ガス排出削減へ取り組んでおります。



昼休み消灯時の様子

環境保全への取り組み

環境負荷の小さい天然ガスの利用促進を特に重視した取り組みを行っています

当社は、国産天然ガス事業者のリーディングカンパニーとして、環境負荷の小さい天然ガスの利用促進を特に重視した取り組みを行い、これらを環境目標に盛り込んでおります。

■ 天然ガスの普及促進

当社の販売ガスの多くを占める千葉県産の天然ガスは、メタンが約 99%を占め、純度の高さと埋蔵量の多さを誇っており、地球温暖化の原因となる二酸化炭素や　大気汚染の原因となる窒素酸化物の燃焼時排出量が、石炭や石油に比べて圧倒的に少ない非常にクリーンなエネルギーです。

千葉県では、当社を含め８社が天然ガスの生産を行っており、県内 50 万世帯以上（１戸当たり都市ガス使用量換算）の生活を支えております。

県内生産量の約 40%を占める当社は、他の化石燃料に比べ環境負荷の小さい天然ガスの普及促進を、事業と環境に同時に寄与するものと捉えて取り組んでおります。

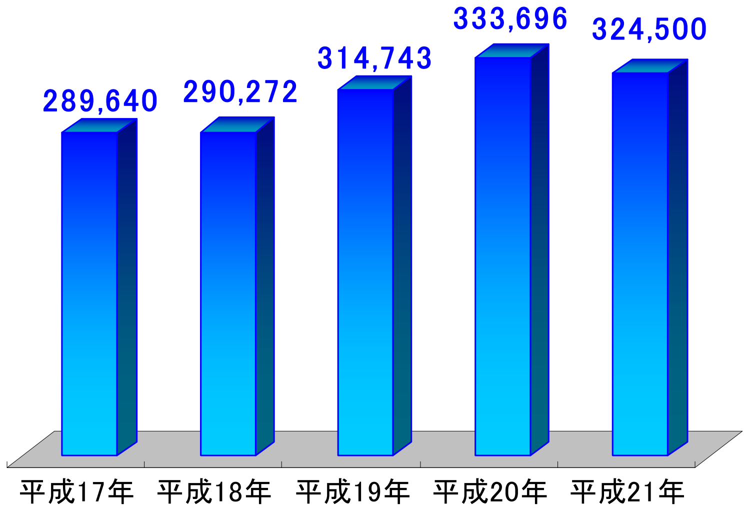
≪エネルギー別排出量比較（石炭を 100 とした場合）≫

出典(1)「IEA(国際エネルギー機関)Natural Gas Prospects to 2010」(1986)
(2)「エネルギー総合工学研究所 火力発電所大気影響評価技術実証調査報告書」1990.3)

≪千葉県産の天然ガスの組成≫

- 発熱量：約39MJ/m3
- 比重：空気1に対し0.56

≪ガス販売量の推移（千㎥）≫



■ 環境に配慮した天然ガス開発の推進

当社が開発している千葉県の天然ガスは、地下のかん水に溶け込んでいる水溶性ガスであることから、その採取には地下水の汲み上げを伴います。

そこで当社は、自主的な生産量の抑制や効率的な開発計画の立案、採取技術および排水浄化技術の研究等に加え、天然ガスを生産するための「生産井」のほかに「還元井」を掘さくし、汲み上げた地下水の一部を地中深くに戻す取り組みを行っております。

こうした取り組みを通じて、当社の事業地域である千葉県との間で締結している地盤沈下防止協定や、水質に関する排水規制を遵守しながら、地域の皆様に安心していただけるよう、環境に配慮した開発を推進しております。

■ 廃棄物の適正管理、３Ｒの推進

当社は、廃棄物処理法に基づく廃棄物の適正な管理を行い、廃棄物の排出量の削減と分別の徹底に努めております。

さらに、事業所内で排出される OA 用紙、新聞紙、段ボール等の紙資源のほか、缶やペットボトル等のリサイクルを進める一方、会社印刷物やコピー用紙へ、再生紙・FSC 認証紙の積極的な使用を行っております。

環境保全に対する社員の意識向上のために

当社は、環境保全に対する社員の意識向上のため、環境保全に関する社内広報誌である『Eco eco times』を発行しております。

この冊子には、環境マネジメントシステムに基づき設定した環境目標の達成状況や、社内の環境関連トピックス等について記載しており、社内のイントラネットに掲載することで、社員の意識啓発を行っております。

2007年１月より毎月発行し、2009年12月現在、第36号に至っております。

■ 編集担当者の声

「『Eco eco times』創刊以来、編集を担当しています。手軽にできるエコ活動等、なるべく身近な話題も記載するように心がけており、社員の意識向上に少しでも貢献できればと思っています。」

工務部工務Ｇ　長内 瑞穂

コーポレート・ガバナンス

事業運営の適法性と効率性の確保のため企業統治体制の充実に注力しています

当社は、規制緩和の進展により経営環境が大きく変化するなか、基盤産業に携わる者として、「迅速かつ的確な意思決定の可能な経営機構の整備」と「社会からの揺るぎない信頼の確立」を、コーポレート・ガバナンスの主たる目的としております。

■ コーポレート・ガバナンスの状況

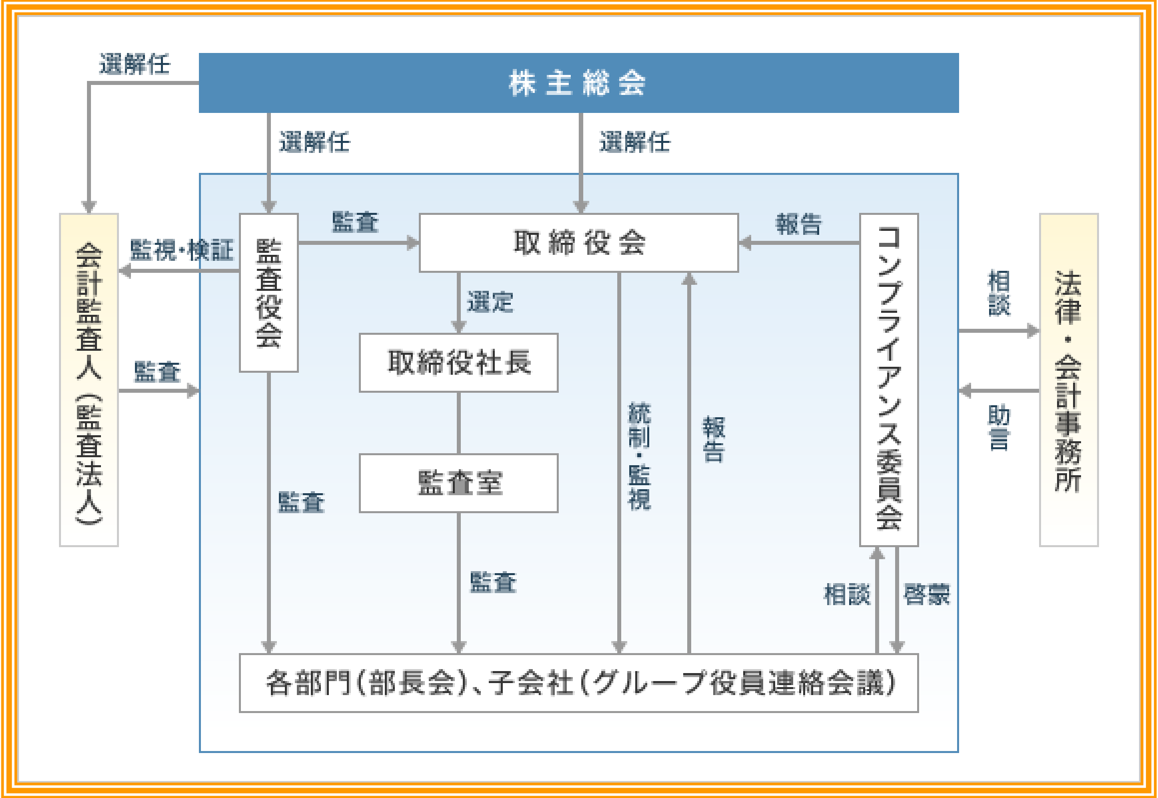
当社は、取締役会が定める「業務の適正を確保するための体制の整備に関する基本方針」のもと、事業運営の適法性と効率性を確保しております。
取締役は、取締役会において、会社の業務執行にかかる重要事項を適時に諮り、職務執行状況を定期的に又は必要に応じて報告するとともに、適正な経営判断が行えるよう、部長会やグループ役員連絡会議等を通じて、社内及びグループ内の情報収集と意思疎通を徹底しております。

また、法令及び社内規則に基づいた迅速かつ的確な意思決定に努めながら、中期経営計画や年度予算の確実な遂行に向けて、部門目標を適切に管理し、これらの経営目標の進捗状況について、取締役会等にて随時確認、検証しております。

さらに、事業全般におけるリスクを把握、評価、分析し、中期経営計画や部門目標等に反映して適切に管理しているほか、大規模地震等の保安上のリスクに備え、保安体制を整備しております。

このほか、事業全般にわたる適法性を担保するため、顧問契約を結んでいる３法律事務所及び１会計事務所に専門的な助言を仰ぐとともに、取締役全員で構成するコンプライアンス委員会を設置し、遵法精神と企業倫理に基づいた企業活動を推進しております。

≪コーポレート・ガバナンス体制模式図≫



≪監査役監査及び内部監査の状況≫

当社におきましては、監査役が会計監査人(あずさ監査法人)と情報交換、意見交換を随時行いながら、策定した監査方針及び監査計画に基づき、取締役の職務執行等の監査を厳正に実施しているほか、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制及び従業員の職務執行等の内部監査を行うため、取締役社長の直轄組織として監査室(人員４名)を設置しております。

■ コンプライアンス

当社は、企業リスクの最小化や、社会的信頼と企業価値の向上を図る観点から、平成 15 年 12 月にコンプライアンス体制の更なる整備を行いました。

具体的には、当社グループにおけるコンプライアンス基本方針を以下のとおり宣言し、役員・従業員一人一人の行動指針として、32 項目から成るコンプライアンス行動規範を策定しております。

また、取締役社長を委員長、取締役を委員とするコンプライアンス委員会を設置し、総務部を事務局として、遵法精神と企業倫理に基づく事業活動の徹底にあたるとともに、社内相談窓口として、コンプライアンス推進担当者を職場に配置いたしました。

なお、法令遵守の徹底のための活動としては、全ての役員・従業員を対象とした講演会やアンケートのほか、管理職および新入社員向けの研修等を毎年実施しております。

グループコンプライアンス基本方針

● **信頼の確立**

貴重な資源の供給およびそれに関連する事業に携わる者として、社会的責任と公共的使命を常に認識し、健全な事業活動を通じて揺るぎない信頼を確立します。

● **安全と品質、サービスの追求**

安全と品質の確保に万全の体制で取り組み、お客様への質の高いサービスの提供に努めます。

● **法令等の遵守**

あらゆる法令やルールを遵守して社会的規範にもとることのない誠実かつ公正な事業活動を行い、市民社会の秩序や安全を脅かす反社会的勢力との関係を一切遮断します。

● **社会とのコミュニケーション**

社内外の未発表情報の管理を徹底して漏洩、不正使用を防止する一方、広く社会とのコミュニケーションに努め、企業情報の適宜かつ公正な開示を行います。

● **良き企業市民としての行動**

事業活動と地球環境との調和、共存に努めるとともに、「良き企業市民」として社会貢献活動に積極的に参加します。

安全と品質の管理

地域社会やお客様の信頼に応えるべく安全と品質の確保に尽力しています

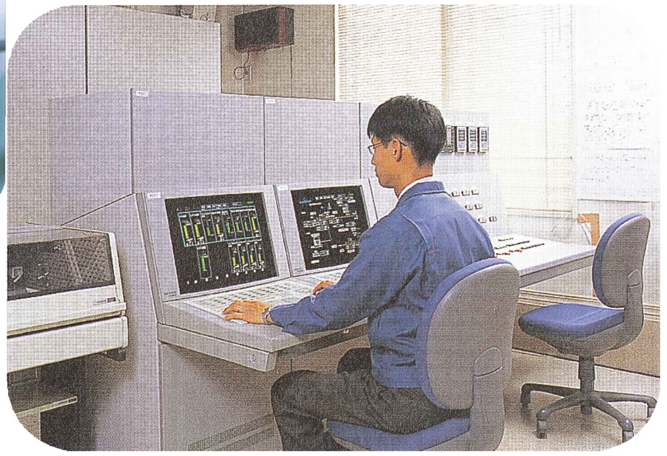
■ ガスの安全管理と安定供給

当社の主たる事業であるガス事業の最優先事項が、安全管理と安定供給です。

当社では、各工程での最適な施策や設備機器の確かさに加えて、全体を貫く制御システムを完備して、生産の始点である井戸から、網の目のように張り巡らされたパイプラインまで、365 日 24 時間体制の監視と制御を行っております。

さらに、季節や時間帯によって変動する需要に合わせ、生産や送出についても、集中コントロールしております。

また、パイプラインネットワークは複数の系統で構成され、万一トラブルが発生しても、周辺のバルブ制御により、別系統からガスを供給できるシステムを構築しております。



★ガス源の多様化

当社は、地域の産業・生活を支える基盤産業に携わる者として、ガスの安定供給を重視しており、その実現のため、千葉県内で生産する天然ガスに加えて、LNG(液化天然ガス)タンク内で LNG の一部が自然に気化したガスである BOG(ボイルオフガス)を仕入れる等、ガス源の多様化を行っており、長期安定供給が可能な体制を築いています。

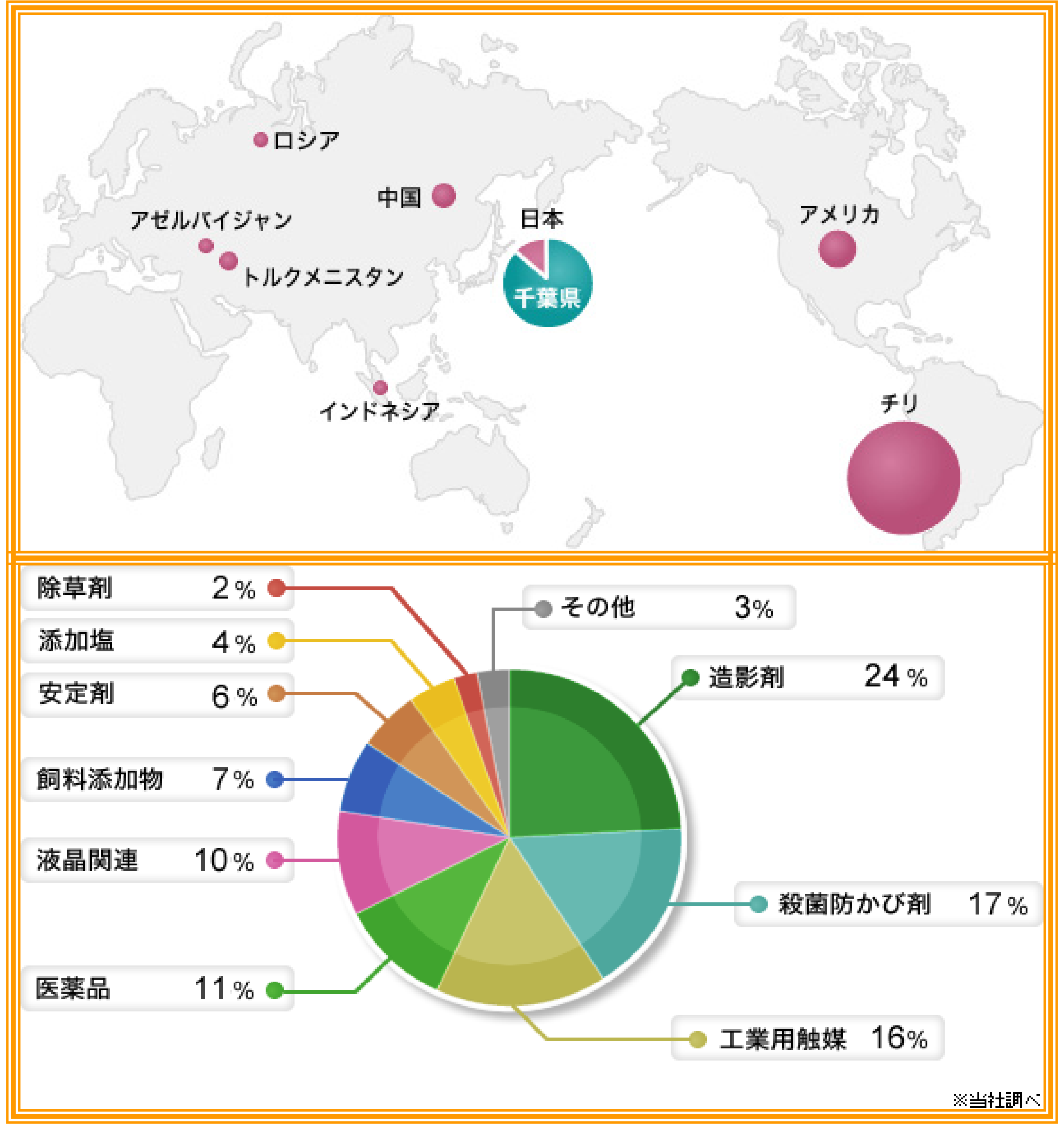
■ ヨードの品質管理

当社事業のもう１つの柱であるヨードは、世界生産量の約 1/3 を日本が占める大変貴重な資源であり、国内生産量の８割超を千葉県が占めております。

当社は世界有数の生産者として、天然ガス採取の付随水であるかん水に豊富に含まれるヨードを抽出し、その大部分を製品化技術の進んだ欧米に輸出しております。

平成７年３月には、品質保証に関する国際規格である ISO9002(平成 14 年５月に ISO9001：2000 に移行）認証をヨード製造で取得する等、確固たる信頼を築いております。

≪ヨード生産地分布状況および用途≫



社会貢献活動

良き企業市民・社会の公器として様々な社会貢献活動を行っています

　当社は、株主、顧客、取引先、地域社会等のステークホルダーの皆様から信頼される企業であり続けるため、様々な活動を行っており、ここではその事例をご紹介します。

■ ヨード支援活動への協力

　ヨードは、人体の生育に必須の元素であり、日本人は海藻や魚介類から必要量を自然に摂取しておりますが、内陸国等の海産物の摂取が少ない地域においては、ヨード不足による発育不全で苦しんでいる方々がいます。

　そこで当社は、世界有数の生産者として、国際機関のヨード支援活動に協力しており、平成９年度から 13 年度にはモンゴルに、平成 18 年度から 21 年度にはカンボジアに、千葉県と業界団体を通じた支援を行っております。

■ 大規模災害被災地への見舞金の寄付

　国内外の大規模災害の被災地等に、人道的見地から見舞金をお送りしております。

　なお、平成 21 年度においては、中国・九州地方での豪雨災害、フィリピンでの台風災害、インドネシアでの地震災害、ハイチでの地震災害等の各被災地に対し、見舞金の寄付等を行いました。

■ 会社見学・インターンシップの受入れ、講師の派遣

　当社の事業拠点である茂原鉱業所において、一般市民や学生等の方に、当社事業および千葉県の天然ガスとヨードに関する知見を深めていただくため、会社見学やインターンシップを受け入れております。また、学校主催の「出張講義」等に対しても、要請に応じて講師を派遣しております。

　さらに、平成 22 年度より、千葉県茂原市に所在する県立長生高等学校が、先進的な理数教育を実施するスーパーサイエンスハイスクールとして文部科学省に指定され、その取り組みの一環として企業と連携した実験や実習を行っており、当社もこれに協力しております。

　会社見学等をご希望される方は、本レポート裏表紙へ記載の茂原鉱業所総務部までお問合せください。

■ 「ゆめ半島千葉国体」「ゆめ半島千葉大会」の開催地市町への協賛

　平成22年９月25日～10月５日開催の「ゆめ半島千葉国体」および同年10月23日～25日開催の「ゆめ半島千葉大会」の開催地であり、当社の開発地域である近隣市町に対して、防球フェンスやコートブラシ等、大会で使用される備品を寄贈しました。

茂原市への防球フェンスの授与式
（左：田中市長、中央：増田常務）

■ 近隣河川の環境保全活動への協力

　当社の開発地域である千葉県長生郡市を流れる河川の環境保全活動に協力しており、地域の皆様とともに自然環境を守るため、河川周辺の清掃等にも参加しております。

■ 茂原七夕まつりへの参加

　当社の事業拠点である茂原鉱業所が所在する千葉県茂原市において、いわゆる日本三大七夕まつりの１つ、茂原七夕まつりに毎年参加しております。

　まつりの期間中は、街頭への七夕装飾の設置に加え、地元の夏の風物詩である「もばら阿波おどり」に、大多喜ガス㈱他のグループ会社と合同で「ガス連」として 100 名規模で参加しており、地域住民の皆様よりご好評をいただいております。

関東天然瓦斯開発株式会社
お問い合わせ先： 茂原鉱業所 総務部
〒297-8550　千葉県茂原市茂原661番地
TEL 0475-23-1313　FAX 0475-24-3330
URL http://www.gasukai.co.jp/